

# 文化財めぐり 奥戸

## -1964東京五輪

## 聖火リレーコースをたどる 第1回-

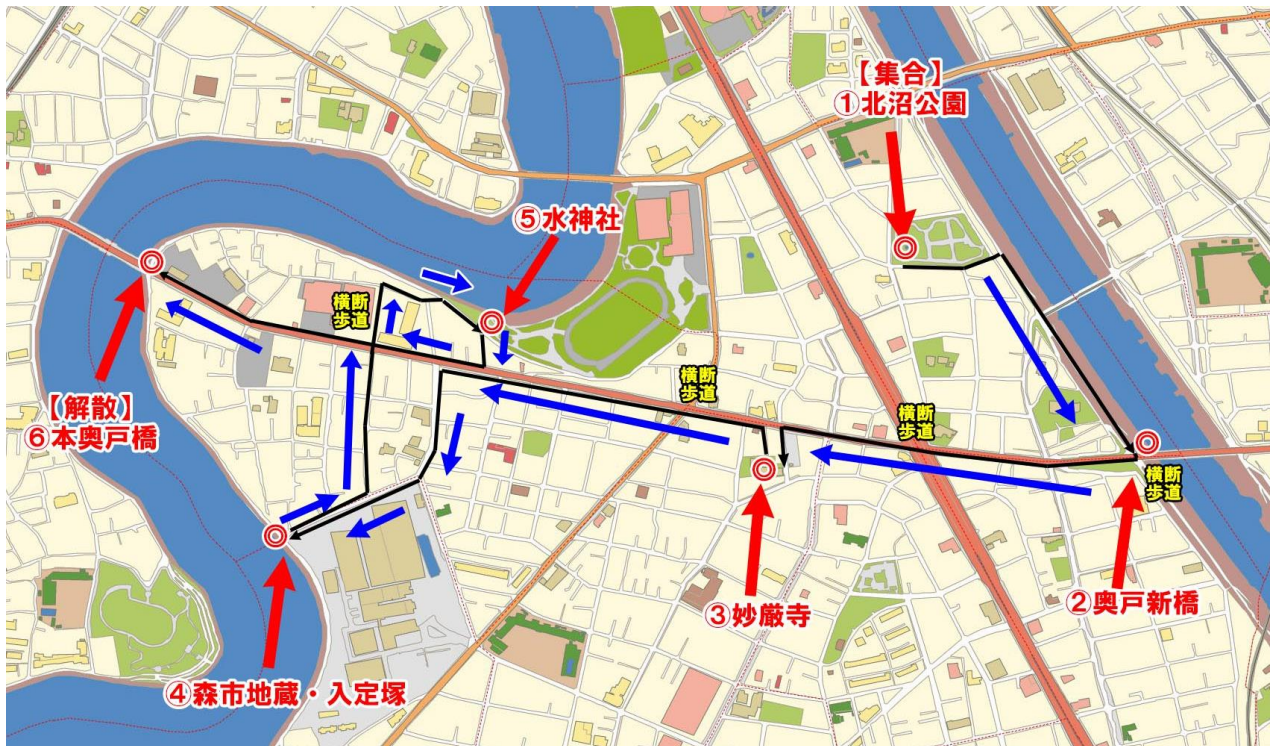
日 時：令和元年5月18日（土） 午前9時30分～正午

集合場所：北沼公園

解散場所：本奥戸橋（奥戸街道）

本日のルート

①北沼公園【集合】⇒ ②奥戸新橋 ⇒ ③妙巖寺 ⇒  
④森市地蔵・入定塚 ⇒ ⑤水神社 ⇒ ⑥本奥戸橋【解散】



# 奥戸

## 歴史

「奥戸」の名称が歴史上に初めて現れるのは、応永5年(1398)8月の「葛西御厨田数注文写」で、「奥戸 廿七丁九反 六十歩 公田一丁六反」と記載されています。葛西御厨とは葛西清重が伊勢神宮に寄進したとされる荘園です。

享徳3年(1455)の享徳の乱以降、葛西地域は戦乱状態となりますが、最終的には、後北条氏の支配下に置かれ、永禄2年(1559)作成の「小田原衆所領役帳」で、奥戸は会田中務丞(信清)の所領として記載されています。

江戸時代初期、奥戸は「奥戸新田」を分村し、「奥戸村」と「奥戸新田」となります。分村の時期は、寛永6年(1629)の八劔神社棟札に「下総国葛西庄奥戸新田」、寛永18年(1641)の天祖神社棟札に「武州葛西奥戸村」とあることから、寛永年間初期(1620年代)までには、奥戸村と奥戸新田に分村したと考えられます。

さらに棟札の記載から、寛永年間に下総国から武蔵国に編入されたと推定されます。これ以後は両村とも葛飾郡東葛西領に属し、江戸時代を通して幕府領で幕府代官の支配を受けていました。

明治時代を迎えると両村は、明治2年(1869)に小菅県、同4年に東京府、翌年実施された大区小区制ではいずれも東京府第十一大区四小区に割り当てられました。同制度が廃止後の同11年からは東京府南葛飾郡に属します。

明治22年(1889)の市制町村制施行により、両村は、奥戸・奥戸新田・細田・曲金・鎌倉新田・上小松・下小松・新宿町飛地字諏訪野などと合併し、新たな奥戸村となります。新たな奥戸村では、旧両村域は奥戸村大字奥戸・奥戸村大字奥戸新田となりました。

なお、大正3年(1914)に、荒川放水路建設工事の影響で平井村が廃村となると、旧上平井村の全域と旧中平井村の一部が奥戸村に編入されました。さらに、奥戸村(新)は昭和5年(1930)に町制を施行し奥戸町となります。

昭和7年(1932)に葛飾区が誕生すると、東京府東京市葛飾区に属することになり、大字奥戸は「奥戸本町」、大字奥戸新田は「奥戸新町」及び細田町の一部となりました。

第二次世界大戦後の昭和38年(1963)から実施された住居表示により、奥戸本町は「奥戸一～五丁目・七～八丁目、東新小岩六丁目」に、奥戸新町は「奥戸二丁目・四丁目～九丁目、新小岩四丁目、東新小岩二丁目、高砂一丁目、細田一丁目」となりました。

## 地名の由来

「奥戸」は「奥津」が転訛したものとされています。「戸」は「津」(港)の意味があり、水上交通の要衝の地を示します。実際に、中川を挟んだ対岸の立石村との間に渡し船がありました。

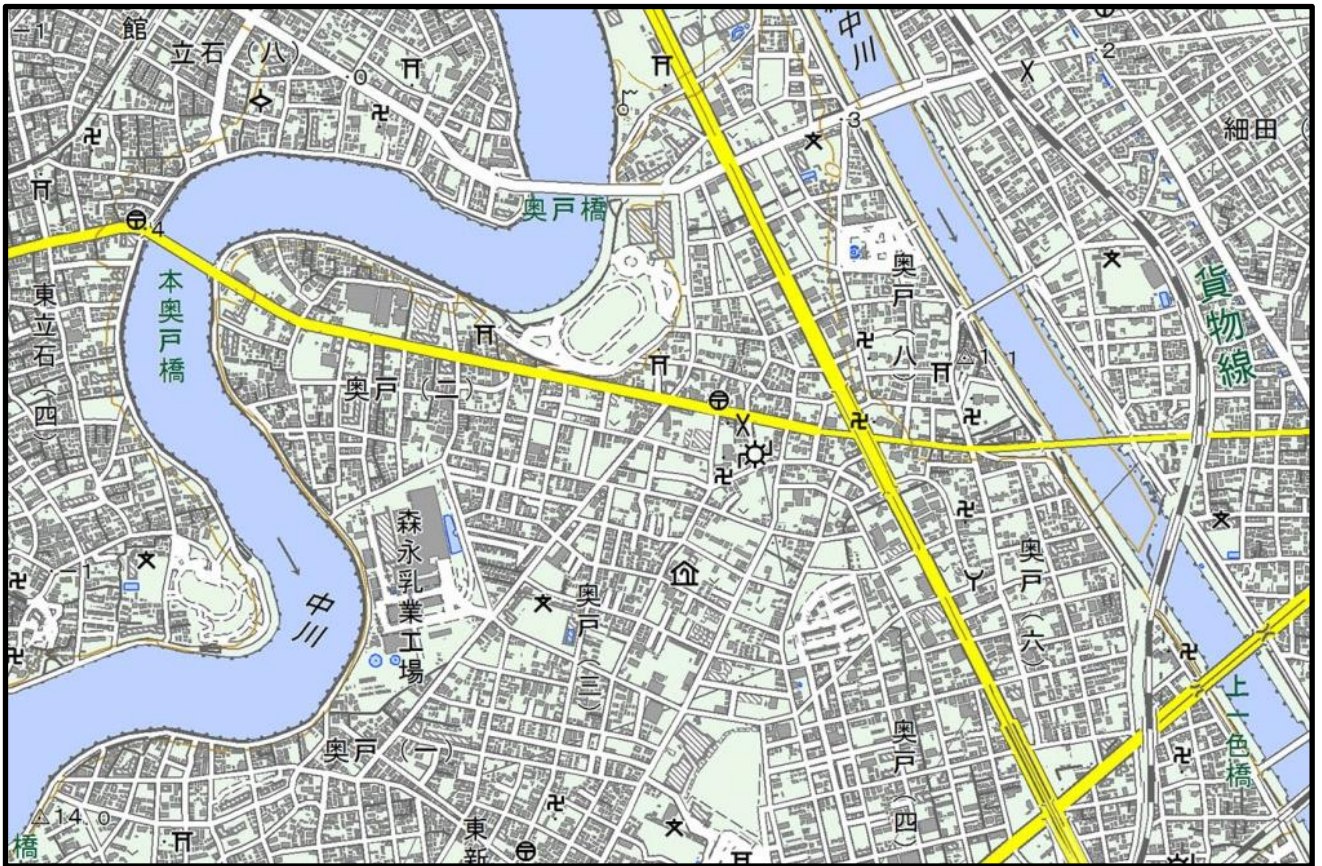
## 村内の小字

奥戸村「前沼／亀田／鳥溜／中野／四段田」  
奥戸新田「南耕地／五段田／潮入／榎井戸／六段耕地／北沼」  
(新編武蔵風土記稿、江戸時代後期)

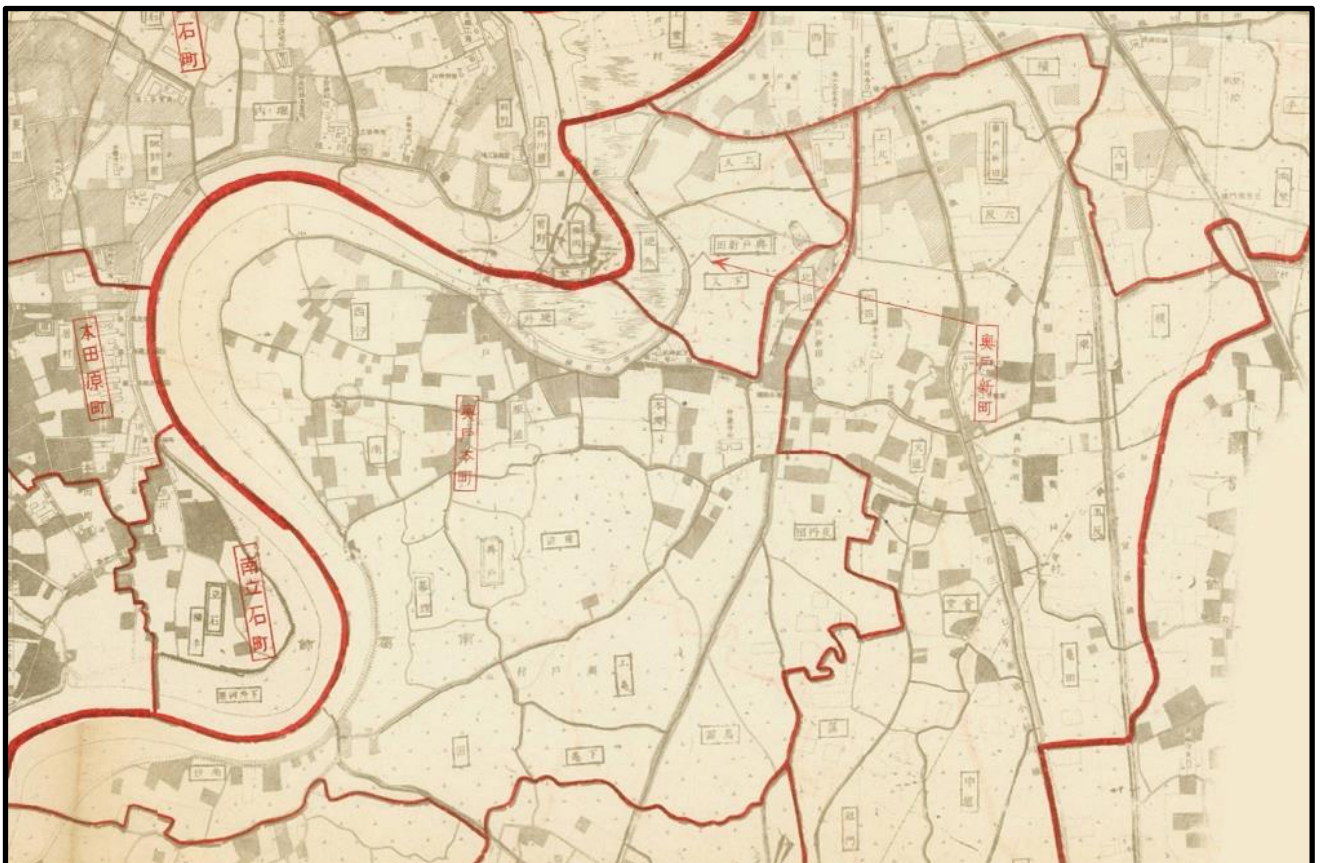
奥戸村「北沼／支丹田／鳥溜／上亀／下亀／南汐／沼耕地／前沼／幕理／本郷／根通／西汐／南耕地／堤外」  
奥戸新田「榎／東耕地／横耕地／六段／五段／亀田／上沼／北沼／大道／会野／中道／五町／下耕地／社門／小真／落耕地／上入／下入／堤外」  
(皇国地誌稿本 東京府誌、明治時代初期)

# 地図・航空写真で見る旧奥戸村・奥戸新田周辺

※掲載の都合上、実際の縮尺とは異なります。



平成25年 電子地形図 25000 国土地理院



昭和7年 葛飾区内町界図 陸軍参謀本部陸地測量部

# 地図・航空写真で見る旧奥戸村・奥戸新田周辺

※掲載の都合上、実際の縮尺とは異なります。



明治42年(1909) 陸軍参謀本部陸地測量部



明治13年(1879) 明治前期測量2万分の1 フランス式彩色迅速測図

## 地図・航空写真で見る旧奥戸村・奥戸新田周辺

※掲載の都合上、実際の縮尺とは異なります。



昭和22年(1947) 米軍撮影航空写真



昭和40年(1965) 国土地理院撮影航空写真



## 妙巖寺

山号・院号・寺号:八王山 不動院 妙巖寺

宗 派:真言宗豊山派

本 尊:不動明王立像(伝、運慶作)

所在地:葛飾区奥戸三丁目28番10号

沿革: 妙巖寺の創立は応永22年(1415)と伝えられています。もともと本寺であった上小松村(東新小岩)正福寺の過去帳に「永享9年(1437)丁巳 妙巖寺義海」という記載があるので、当寺が応永年間の創立であることが立証できます。その後、永禄元年(1558)に上小松村西蔵院(明治初期に廃寺)の海鎮法印が中興しました。

江戸時代末期の安政2年(1855)に発生した安政江戸地震で本堂が倒壊、明治16年(1883)に再建しました。その後、昭和9年(1934)、昭和44年(1969)に本堂の改築・改修が行われましたが、老朽化のため本堂を新築、昭和62年(1987)に現在の本堂が落慶しました。

なお、元文4年(1739)の「正福寺惣門末起立録」には以下のとおり記載されています。

- 本奥戸村
- 八王子山 不動院 妙巖寺
- 一、本尊不動明王
- 一、中興 元禄元午年 法印海鎮  
元文四己未年迄 凡百九十三年
- 一、牛頭天王社地 壹反余 御見捨
- 一、境内 貳反三畝十歩 御除地
- 一、寺附田地 九反七畝二歩 御年貢地
- 一、買添 壹町貳畝十歩 御年貢地
- 一、御法流 享保元申年法印盛咩相続
- 一、御代官所 伊那半左衛門殿

# 妙巖寺の文化財

## 金銅華鬘 2面



種 別:区登録有形文化財  
登録年月日:平成7年(1995)2月22日  
総高:34.2cm 縦:26.5cm 横:33.0cm

華鬘(けまん)はもともと生花で作られた花環で、装身具だったものが転じて仏堂の内陣長押に垂らす荘厳具となったものです。

この華鬘は一枚の銅板に房付きのひもを結んだ形を打ち出し、左右に蓮池紋を透かし彫りにし、本体下には瓔珞が5本吊り下げられています。

2面とも裏面に「為冷泉戒浄善女佛果也／享保十八癸丑 天 十一月十三日／施主村越氏」と彫銘があります。村越氏は同寺の檀家の一つで、彫銘の戒名は同寺の過去帳に見られます。

## 木彫地蔵菩薩像

種 別:区登録有形文化財  
登録年月日:平成7年(1995)2月22日  
坐 像 高:7.0cm

この地蔵菩薩像は、岩座に半跏踏下げ像で、蓮華座に乗せられています。さらに、地蔵菩薩像を覆うように宝珠形の蓋がかぶせているのが特徴です。

像背面に「為宝誉栄三菩薩 照明寺栄範敬白」、台座底面に「元文二丁巳天 十月十日」とあります。

作成者や当寺への来歴は不明ですが、宝珠の中から地蔵が出現するという意匠が注目されます。



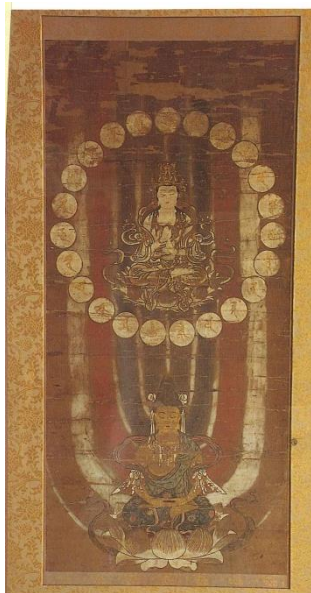
## 十三仏信仰関係遺品一括

種 別:区登録有形民俗文化財  
登録年月日:平成7年(1995)2月22日

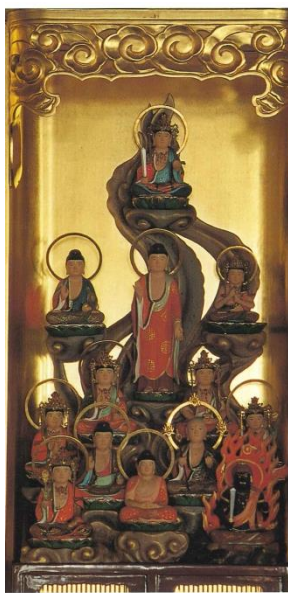
十三仏信仰は初七日から三十三回忌まで13回の法事に礼拝する仏・菩薩を定めて供養したもので、江戸時代に普及しました。

妙巖寺には以下の十三仏信仰関係遺品が遺されています。

- ①紙本着色両界曼荼羅及び十三仏図 3幅  
各幅 88cm×38cm  
天保10年(1839)調整、昭和27年修復
- ②紙本着色十三仏図 1幅 66cm×25.6cm  
安政4年(1857)調整、昭和55年修復
- ③木造十三仏像 厨子入13軀  
中尊像高20.5cm 各尊像高10~11cm



「絹本着色金剛界・胎藏界の大日如来図  
(光明真言曼荼羅図)」



「木造十三仏像 厨子入13軀」

# 森市地蔵・入定塚

かつしかの文化財第88号3面  
(平成30年3月1日発行)より転載

## にゅうじょう 森市地蔵と入定塚

## 文化財保護推進委員 (奥戸地区) 小川 正春



入定塚



供養会の集合写真

本奥戸橋から中川左岸を下ってしばらく行くと、祠が2つ並ぶ光景が見えてきます<sup>注1)</sup>。ここが、「森市」という六部行者<sup>ろくぶぎやうしゆ注2)</sup>終焉の地で、地元では「森市地蔵」や「塚の河岸」と呼ばれています。

森市の詳しい経歴は不明ですが、江戸時代に諸国を廻国した後、たどりついた地が奥戸でした。奥戸での暮らしは想像の域を出ませんが、伝承によると村人から尊敬される存在だったようです。

奥戸で数年を過ごした森市でしたが、ある時自らの命が短い事を悟ります。すると、世話になった奥戸の人々の繁栄を願って入定することを決めたのでした。

入定とは食べ物や断った後、生きながらに墓穴に入り、命がつきるまで鉦を鳴らし読経をし続けて即身仏となる行為です。経を唱える声と、鉦の音は三日三晩続いた後やがて途絶えたそうです。村人は自分たちを思い入定した森市を弔うために地蔵を祀り供養しました。

その思いは引き継がれ、昭和56年(1981)には「入定塚」の石塔が、さらに平成10年(1998)には由来を伝える説明板が築られました。そして、毎年6月24日には、森市福地蔵尊弘法大師奉賛会によって供養会が執り行われています。

注1) 奥戸二丁目1番先。右側の祠は、大正12年(1923)に整備された、南葛八十八ヶ所第十二番霊場。

注2) 六十六部行者の略、本来は全国66か所の霊場に納める66部の「法華経」の意。転じて、納経しつつ諸国を巡礼する行脚僧。

参考文献:

葛飾区教育委員会『昭和63年度葛飾区プラネタリウム郷土資料館(仮称)資料調査報告書 水元・奥戸の民俗』平成元年

# 森永乳業東京工場

かつしかの文化財第81号3面  
(平成28年6月1日発行)より転載

## 奥戸に根付いた森永乳業東京工場 文化財保護推進委員 (奥戸地区) 小川 正春

昭和32年4月、奥戸一丁目の日本建鉄跡地に牛乳・乳製品の総合工場として森永乳業東京工場が操業を開始しました。敷地面積は約66,000m<sup>2</sup><sup>注1)</sup>、総工費は当時の価格で1.3億円<sup>注2)</sup>だったそうです。設備はオートメーション化による作業の合理化が徹底され、衛生面でも防塵・防虫用のエアーカーテンが設置されるなど、当時の最新の方式が採用されていました。

現在の主力製品は、1日に20万個以上生産される、焼きプリンだそうです。当時の主力は1日あたり540KL<sup>注3)</sup>生産される牛乳やヨーグルトでした。この生産量は当時、東洋一で世界有数の生産量でした。

さらに、環境を重視して敷地の30%超を緑地帯として整備し、現在も毎年8月の日曜日のう1日を開放日にすると共に、乳製品の即売会も行い、午前中だけで3000名もの人たちが賑わいます。



落成時の森永乳業東京工場(写真提供:森永乳業東京工場)

また、奥戸天祖神社の例大祭では、大神輿と女神輿の総勢500名超の担ぎ手たちの休憩所として敷地を提供しています。操業から60年あまり、今では奥戸にしっかりと根付き、地元になくはない存在となっています。

取材協力:森永乳業東京工場

注1) 2万坪。東京ドームの約1.4倍

2) 国家公務員(大卒)の初任給が、9,200円。現在は181,200円

3) 牛乳瓶200cc×270万本もしくは、牛乳パック1ℓ×54万本



# 奥戸水神社

（平成27年12月1日発行）より  
「からしかの文化財第79号1面」  
より転載

昔から稲作が盛んな地域には、灌漑用水の守護神として、水神様が祀られてきました。現在は想像できませんが、奥戸地区では昭和30年代まで稲作が盛んに行われていました。稲作を行う家は、平成4年(1992)には無くなってしまいましたが、今も水神様が葛飾区総合スポーツセンター陸上競技場の西隣で大切に祀られています。



水神社の正確な創建時期は不明ですが、一説には享保14年(1729)に井沢弥惣兵衛<sup>(注1)</sup>による中川開削工事の際に祀られたとされています。当初は現在地から200メートル程下流の「鼠山」と言われる場所にあったとされ、大正11年(1922)の中川改修に伴い現在地に移されました。

江戸時代は眞言宗妙厳寺が別当寺<sup>(注2)</sup>として管理をしていましたが、現在は水神社の鏡宮司と町会役員によって維持管理と祭礼がなされています。

7月19日(日)に行われた今年の水神社例祭では、境内での式典の他、隣接する広場で奥戸二丁目町会運営の模擬店(かき氷、ポップコーン、焼きそば、スーパーボール、ヨーヨー)が開かれ、500名を超える子供たちが集いました。地域の太鼓の会による演舞<sup>(注3)</sup>も祭りを盛り上げて、夏のひとときを過ごしました。

例祭後の直会<sup>(注3)</sup>には、神事に参加した一同が集います。神職の教義を聞いた後、130名余の氏子が水神様のご利益に感謝して、神饌<sup>(注4)</sup>をいただきながら互いを労いました。このような活動を通して、地域の伝統を未来へ語り継ぐ会を継承しています。



## 参考文献

葛飾区教育委員会(1981)『葛飾区神社調査報告書』  
「奥戸水神社・社誌」(境内石碑)

- 注 1) 井沢弥惣兵衛：江戸時代の土木家。徳川吉宗の命で、享保期に行われた新田開発や灌漑工事の多くに  
2) 別当寺：神社を管理するために置かれた寺。  
3) 直会：神事の後に、参加者一同で神酒や神饌を食べる行事。  
4) 神饌：その土地の人々が恩恵を受けた「米・酒・山海の幸・旬の食物」など、神事の際に神に捧げる食物。



## 水神社境内整備記念碑

東京オリンピック競技大会開催記念  
昭和39年10月建立

# 1964東京五輪聖火リレーと葛飾

## ○ 日本国内を駆け抜けた聖火

昭和39年(1964)の10月10日から10月24日までの15日間に渡って開催された東京オリンピックは、アジア地域で初めて開催されたオリンピックです。昭和15年(1940)にオリンピックの開催権を返上、その後の第二次世界大戦で敗戦した日本の復活と国際社会への復帰を国内外に示した大会でもありました。

開会式から遡ることおよそ2か月前の8月21日、聖火の採火式がギリシャのオリンピアにあるヘラ神殿跡で行なわれました。その後、聖火はアテネ(ギリシャ)→イスタンブール(トルコ)→ベイルート(レバノン)→テヘラン(イラン)→ラホール(パキスタン)→ニューデリー(インド)→ラングーン(ビルマ)→バンコク(タイ)→クアラルンプール(マレーシア)→マニラ(フィリピン)→香港(当時、英国領)→台北(中華民国台湾)を經由して、9月7日に沖縄へ到着しました。なお、アテネから沖縄までは、日本航空のダグラスDC-6B、コンベア880Mによって運搬され、那覇から国内各地へは、全日空のYS-11が使用されました。

当時はアメリカの占領下であった沖縄ですが、沖縄が日本体育協会に加盟していたことから、国内の聖火リレーは沖縄から開始されました。この後聖火は鹿児島、宮崎を經由して北海道へ向かい、この3地点が聖火リレーの起点となりました。北海道からスタートした聖火リレーは青森で二手に分かれ、以下の全部で4つのコースで東京へと向かいました。

そして、10月7日から9日にかけて東京都庁に集まった各コースの聖火は、9日に皇居前に設置された聖火台で集火され、翌10日午後2時35分から、皇居前から国立競技場までの6.5kmで最終の聖火リレーが行なわれました。そして、最終聖火ランナーの坂井義則氏の手にとられました。

### 第1コース 9月9日(水)～10月9日(金)

鹿児島→熊本→長崎→佐賀→福岡→山口→広島→島根→鳥取→兵庫→京都→福井→石川→富山→新潟→長野→山梨→神奈川→東京

### 第2コース 9月9日(水)～10月8日(木)

宮崎→大分→愛媛→高知→徳島→香川→岡山→兵庫→大阪→和歌山→奈良→京都→滋賀→三重→岐阜→愛知→静岡→神奈川→東京

### 第3コース 9月9日(水)～10月7日(水)

北海道→青森→秋田→山形→新潟→群馬→埼玉→東京

### 第4コース 9月9日(水)～10月7日(水)

北海道→青森→岩手→宮城→福島→栃木→茨城→千葉→東京

## ○ 葛飾区内を駆け抜けた聖火

葛飾区内を聖火が駆け抜けたのは、10月7日(水)でした。葛飾区内には3つの区間が用意され、江戸川区から聖火が引き継がれたのが、新中川の奥戸新橋でした。聖火リレーには1区間ごとに、正走者1人・副走者2人・随走者20人の、3区合計69人(うち、女性6人)が走りました。ルート及び主な走者は以下のとおりです。

### 一区 新中川放水路奥戸新橋西詰 → 本奥戸橋東詰 <1.7km>

正走者:伊藤正孝(20)三菱製紙

副走者:佐伯文男(19)葛飾区役所/関芳雄(18)三菱製紙

随走者(伴走者):区内中学生20人

### 二区 本奥戸橋東詰→篠原有料駐車場前※平和橋通り、四つ木中学校入口交差点付近 <1.9km>

正走者:小林武夫(20)岡田タイヤ

副走者:佐藤武雄(18)三基産業/森谷敏郎(16)森谷工業

随走者(伴走者):一般20人

### 三区 篠原有料駐車場前 → 堀切橋中土手間※現、堀切小橋付近 <1.6km>

正走者:入交勝男(19)日本大学2年

副走者:水口年始(19)宝塗料/野中清明(19)日軽アルミ

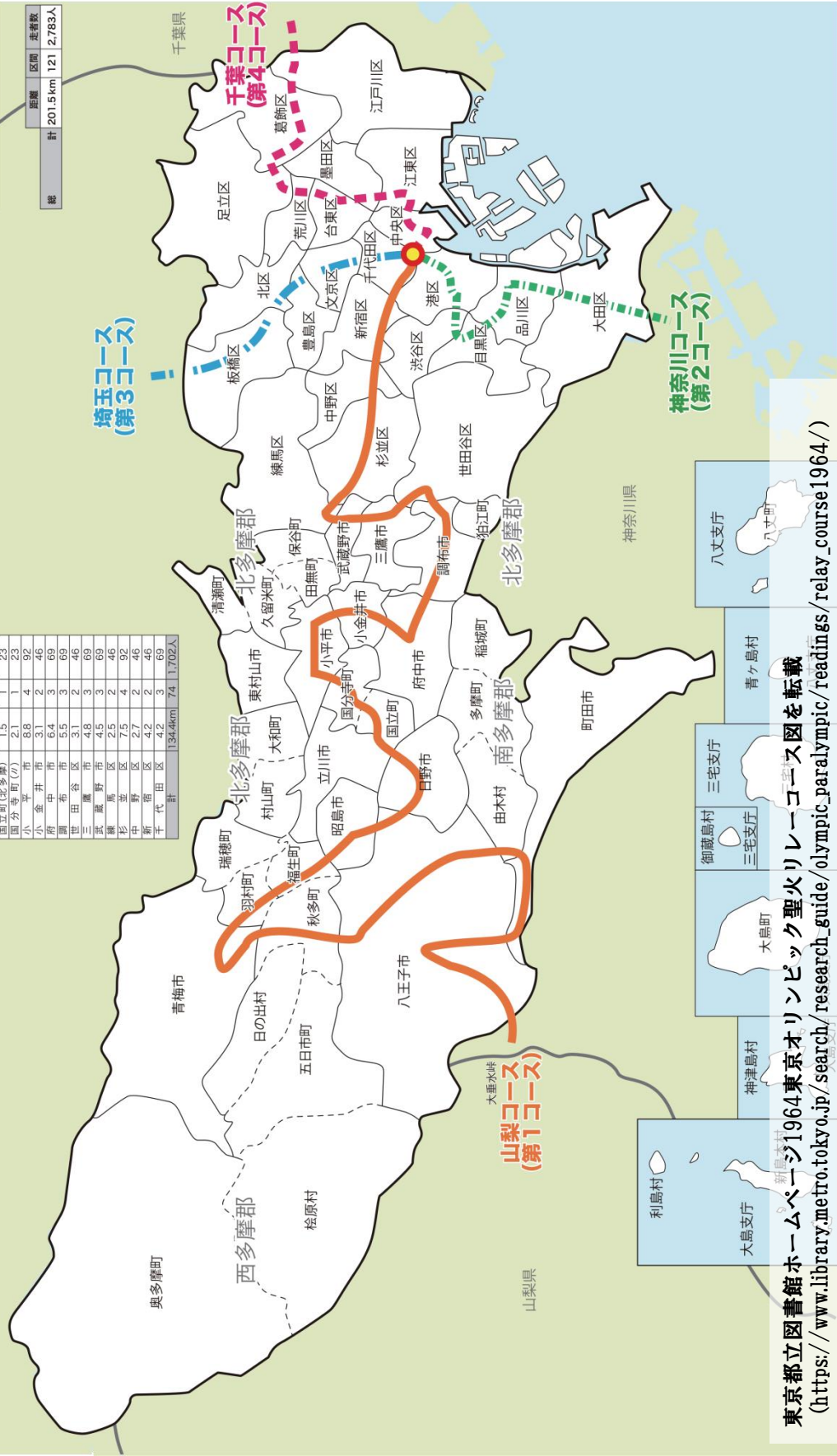
随走者(伴走者):区内高校生20人

# 1964年東京オリンピック聖火リレー東京都内コース図

山梨コース (第1コース)			神奈川コース (第2コース)			埼玉コース (第3コース)			千葉コース (第4コース)			
区市町村名	距離	走者数	区市町村名	距離	走者数	区市町村名	距離	走者数	区市町村名	距離	走者数	
八王子市	25.5km	13	大田区	6.3km	3	板橋区	7.8km	4	江戸川区	2.8km	2	
町田市	7.0	4	品川区	7.0	4	北区	0.8	2	葛飾区	5.2	3	
由木村(西多摩)	1.2	1	目黒区	2.4	2	豊島区	2.0	2	足立区	3.7	3	
秋多町(西多摩)	6.3	3	渋谷区	2.3	2	文京区	3.9	3	荒川区	1.1	2	
瑞穂町(西多摩)	115	5	千代田区	5.7	3	千代田区	3.7	2	台東区	3.6	2	
羽村町(西多摩)	4.4	2	千代田区	15	23	千代田区	18.2km	13	墨田区	2.0	2	
瑞穂町(西多摩)	4.4	2	計	25.2km	15	345人			江東区	2.0	2	
羽村町(西多摩)	7.6	4							中央区	3.5	2	
日野市	4.7	3							千代田区	0.4	1	
立川市	3.1	2							計	23.7km	19	
国立町(北多摩)	1.5	1									437人	
国分寺町(西)	2.1	1										
小平市	8.8	4										
府中市	3.1	2										
調布市	6.4	3										
世田谷区	5.5	3										
武蔵野市	3.1	2										
武蔵野市	4.8	3										
武蔵野市	2.6	2										
武蔵野市	2.6	2										
杉並区	2.5	2										
杉並区	2.7	2										
新宿区	4.2	2										
千代田区	4.2	3										
計	134.4km	74										
		1,702人										

埼玉県

区市町村名	距離	走者数
計	201.5km	121
		2,783人



東京都立図書館ホームページ1964東京オリンピック聖火リレーコースマップ図を転載  
 (https://www.library.metro.tokyo.jp/search/research\_guide/olympic\_paralympic\_readings/relay\_course1964/)

参考資料：『オリンピック東京大会の聖火記録』聖火リレー編 聖火リレー 1964  
 『全国市町村要覧 昭和39年版』市町村要覧編集委員会編 第一法規 1964 ほか

# 葛飾区内聖火リレー第一区関係写真



奥戸新橋東詰南側で待機する第一区走者、奥の鉄橋は新金貨物線中川放水路橋梁



江戸川区から聖火  
リレーランナーが  
到着(下)

トーチを持って待機する第一区正走者  
腕章をつけているのは「小川孝之助」元区長





スタート直後の聖火ランナー。  
副走者は火のついていないトーチ、  
随走者(伴走者)は五輪マークの小旗  
を持っている。(上)

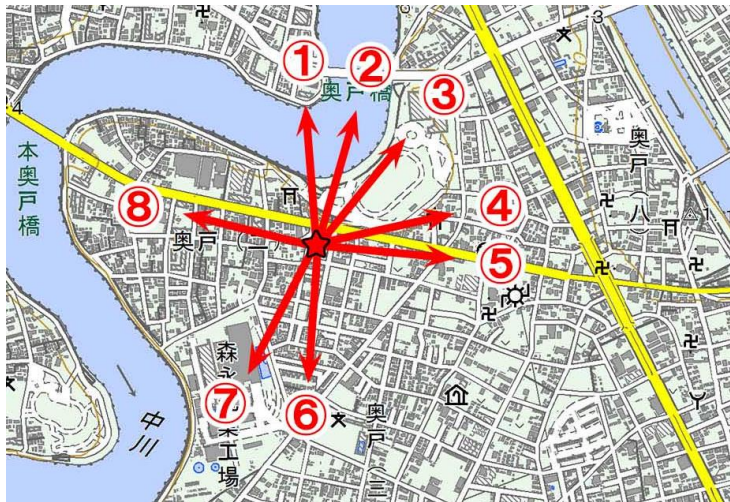
現在のライブ奥戸街道店付近を  
走行中の随走者(伴走者) (右)



奥戸新橋付近の鈴なりの観客(下左)  
スタート地点には、区内中学校の  
吹奏楽部が演奏を行った。(下右)



# 奥戸旧景写真(昭和31年)



星印(★)の地点にあった火見櫓から、撮影された写真。昭和31年(1956)撮影。



①

撮影場所より北方向、中川と対岸の立石八丁目方向を望む。写真中央左の木立が水神社。写真中央右に架かる橋は、奥戸橋。



②

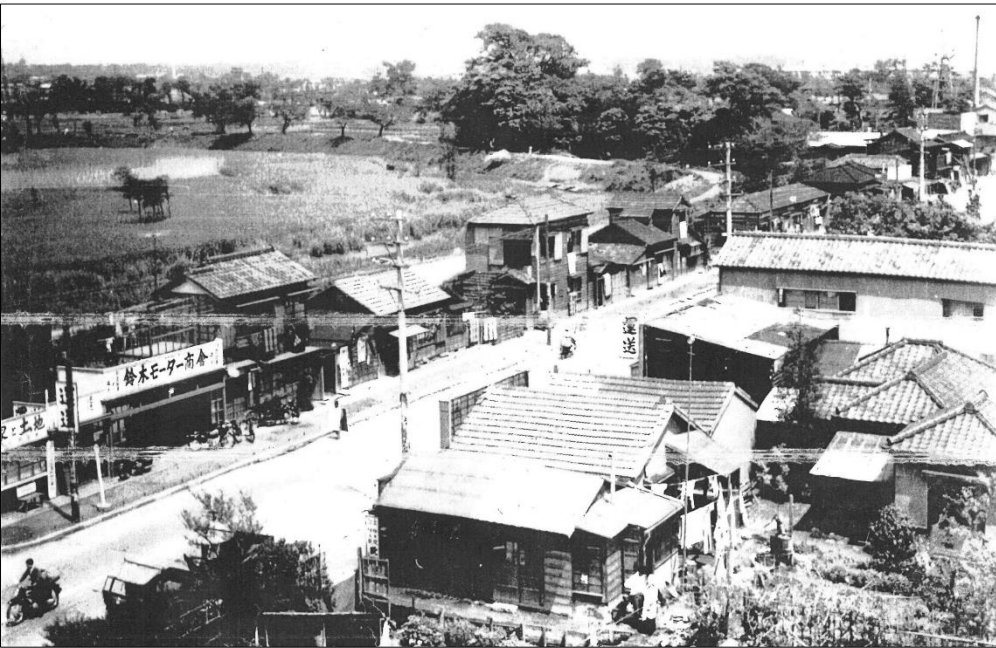
撮影場所より北北東方向、中川と奥戸橋方向を望む。写真中央から右手にかけてが現在の総合スポーツセンター陸上競技場。画面下は奥戸街道。

# 奥戸旧景写真(昭和31年)



③

撮影場所より北東方向を望む。  
写真中央に広がる葦原が現在の総合スポーツセンター。



④

撮影場所より東北東方向を望む。  
写真中央の木立が奥戸天祖神社。



⑤

撮影場所より東方向を望む。  
写真中央左端の木立は奥戸天祖神社。  
中央やや左の煙突は奥戸湯(現在は、デイサービスセンター健遊館奥戸湯)。  
中央左端が妙厳寺。

# 奥戸旧景写真(昭和31年)



⑥

撮影場所より南方向を望む。  
写真中央奥の木が生えているところが鬼塚。  
その左が奥戸小学校分校(現在の南奥戸小学校)。  
右側の奥の建物は森永乳業東京工場。



⑦

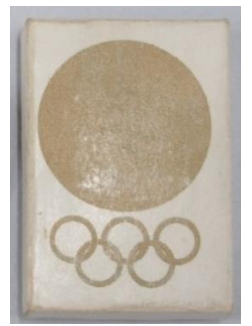
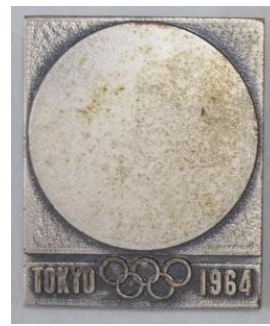
撮影場所より南南西方向を望む。  
写真中央が森永乳業東京工場。



⑧

撮影場所より西方向を望む。





聖火リレー参加記念章(上)同外箱(上左)  
聖火リレーユニフォーム(左)

聖火リレー参加記念  
アルバム(右)  
聖火リレー参加記念  
手ぬぐい(下)  
※いずれも葛飾区が、  
参加者に渡したもの



<主要参考文献一覧>

- ・葛飾区『増補 葛飾区史』昭和60年
- ・葛飾区教育委員会『葛飾区寺院調査報告 上』昭和54年
- ・葛飾区教育委員会『葛飾区寺院調査報告 下』昭和55年
- ・葛飾区教育委員会『葛飾区神社調査報告』昭和56年
- ・葛飾区教育委員会『葛飾の文化財』平成8年
- ・葛飾区郷土と天文の博物館『かつしかの文化財散策地図』平成23年
- ・葛飾区郷土と天文の博物館  
『特別展 平成かつしか風土記 ～地域の継承と文化財～』平成28年
- ・東京都立図書館ホームページ(<https://www.library.metro.tokyo.jp/>)
- ・(公財)日本オリンピック委員会ホームページ(<https://www.joc.or.jp/>)
- ・葛飾区のお知らせ 第132号・第135号(昭和39年)ほか

<資料提供者・協力者>(順不同・敬称略)

佐伯文男、鬼塚一英、樫原則雄、古渡潔、高橋修、高橋紳、鈴江明、葛飾探検団